



# かんすい

日本水環境学会関西支部ニュースレター

No.19

(2016年1月29日発行)

－ 編集・発行 －

日本水環境学会関西支部

－ 連絡先 －

〒615-8540 京都市西京区京都大学桂  
Cクラスター (C1-3-464)

京都大学大学院 工学研究科 島田洋子

E-mail : shimada@risk.env.kyoto-u.ac.jp

TEL 075-383-3357 FAX 075-383-3358

## 支部長挨拶

第31・32期関西支部長 米田 稔  
(京都大学工学研究科)

(公社)日本水環境学会関西支部会員の皆様には、日頃より関西支部活動についてご支援を賜り感謝いたします。この度、私は駒井幸雄前支部長の後を引き継ぎ、第31～32期の関西支部支部長として大久保卓也副支部長、長谷川進副支部長、八木正博副支部長、島田洋子幹事長とともに新体制を組み、これからの2年間の支部活動に臨むことになりましたので、ご挨拶を申し上げます。

私は1995年、阪神・淡路大震災が発生した年に関西支部幹事会に加えて頂きました。当時は村岡浩爾支部長の下、震災からの復興において、関西支部としても何か貢献しなければとの意識が会員間に強く、水質測定などにおいて十分な体制が組めないでいた各自治体などに替わって、関西支部として被災地における水質調査を実施しました。まだ車の通行が困難な場所も多い中、兵庫県立公害研究所(当時)のメンバーに京阪神における大学・研究機関のメンバーも加わり、大規模な水質調査を実施しました。道路のガードレールから垂らしたロープを掴んでの河川水面からのサンプリングや、電源を使用しないでの現場における試料水の大量前処理など、関西支部幹事として調査チームに入って初めて経験させて頂いたことも多く、私にとっては自分の研究者としての視野を一段階広げる機会になったと同時に、私が関西支部の力と、組織の垣根を越えた活動の楽しさを感じた最初の機会でもありました。その後も関西支部としての出版活動や川部会活動などを通じた関西支部における様々な機関の方々との交流は、環境研究者としての自分の成長にとって大きな糧となっていたことは確かだと思えます。

今回、支部長に就任させて頂くことになり、まず、支部組織の存在意義、その活動目的とは何であろうかと考えてみました。残念ながら支部のホームページにはこの目的に関する記載がなかったため、本部ホームページの記載を借用しますと、「水環境に関連する分野の学術的調査や研究、知識の普及、健全な水環境の保全と創造への寄与、学術・文化の発展への貢献を活動目的として」と定義されています。よって、関西支部の存在意義・活動目的とは、「関西の水環境に関連する研究・調査・知識普及、健全な水環境の保全と創造への寄与、学術・文化の発展への貢献」ということになるのかと思います。この目的を達成するためには、私が関西支部において経験してきたような、関西の水環境の保全と創造をテーマとしての組織を越えた研究・調査・知識普及活動を行っていく必要があると考えています。そしてそのような環境を構築していくことが支部長としての役割であると考えています。

今期より、幹事会の構成はずいぶん若返りました。現在、関西支部は川部会、化学物質部会、環境情報モニタリング部会の3部会体制で動いていますが、各部会が設立された当時のメンバーからの世代交代が十分に進んでいるとは言えないかと思っています。世代交代とは単に組織のメンバーが若いメンバーに変わるのではなく、シニア、中堅、若手が水環境をテーマとして交流し、関西の水環境を愛する気持ちを受け継いでいってこそ、世代交代がうまく進んでいると言えるのかと思います。シニアの方々には、まだまだ元気に支部活動にご参加頂き、各活動の中で中堅・若手らが気兼ねなくシニアの方々とも交流し、関西の水環境の魅力を、そして関西支部活動の楽しさを感じられるような環境を創っていくことができれば支部長としての何よりの喜びです。

いろいろ行き届かないところも多いかと存じますが、執行部一同、関西支部活動をより元気なものへと発展させるべく、努力していきたいと考えています。今度とも、ご支援・ご鞭撻のほど、どうかよろしくお願ひ申し上げます。



## 部会紹介

川部会、化学物質部会、環境モニタリング情報部会の3部会の活動内容を以下に記します。

### 川部会

最近の活動状況を紹介する前に、恒例ですが川部会の歴史を短く記しておきます。川部会活動の始まりは1998年度で、当初は水辺環境と都市の水循環に関する勉強会でした。その後少しの中断を経て、2001年度より部会長体制のもと、本格的な活動を始めました。

正式な行事となった川の価値を見直す「川歩き」は、「河川の持つ治水、利水、環境の3つの役割の中で、特に水辺環境の役割や流域の歴史・文化について観察する」ことを目的としています。2001年9月の貝塚市近木川をかわきりに、多い時には2ヶ月に1回のペースで関西を中心とした川を歩き、雑誌（環境技術）連載やリーフレット発行の形で結果を報告しています。

今年度の活動を紹介します。川歩きは5月に泉佐野市榎井川、7月に兵庫県武庫川中上流部を実施し、11月には和歌山県日高川を訪れる予定です。

5月の川歩きでは、歴史館いずみさので日根荘など荘園の歴史を学び、榎井川支川の牛滝川上流に位置する七宝瀧寺で見事な滝を見学の後、雨模様の金剛生駒紀泉国定公園葛城山で霧が神秘的にかかる天然記念物ブナ林を観察。下山後、榎井川の用水が流れる日根神社、重文慈眼院や、榎井川下流部を視察しました。なお、ブナ林訪問を機会に、例会では河川流域の森林の役割を深く知る勉強会が始まりました。

7月の川歩きでは、多自然型川づくり工法で河川改修された武庫川中上流部の日出坂洗い堰や、大規模な多自然型魚道を有する県営青野ダムを視察し、中流部の三田市では歴史を刻む擬洋風建築の三田藩家老旧九鬼家住宅資料館、歴代藩主の墓所で白洲次郎・正子の墓もある心月院、県立有馬富士公園に隣接する彫刻家新宮晋の「風のミュージアム」等を見学しました。

久しぶりの和歌山県内河川である11月の日高川では、椿山ダム見学をメインとして瀬音が滝のような佐井の鳴滝、新高津屋発電所を視察の後、安珍・清姫伝説で有名な道成寺を訪れる予定です。

私たちの「川歩き」は過去14年間で70近くになります。関西の川をもう一度自分の目で見て再評価する試みは際限がありませんが、琵琶湖・淀川水質保全機構、近畿建設協会と共同で企画・編集し、大きな情報発信手段となっているリーフレットの発行は、25冊目の最終版「琵琶湖・淀川」で一応の決着をみます。その後は、25冊分の河川にその他の河川を加え集大成の書籍を出版する企画もあります。まだまだ続く川歩きの旅を楽しみながら部会活動を進めたいと思っていますので、会員の皆様のご参加をお待ちしています。

【連絡先】 部会長 古武家善成（神戸学院大学） E-mail：dfmfn512@kcc.zaq.ne.jp  
幹事長 服部 幸和（大阪教育大学） E-mail：yukikazu1724@kxe.biglobe.ne.jp  
担当支部幹事 駒井 幸雄（大阪工業大学） E-mail：komai@env.oit.ac.jp

### 化学物質部会

化学物質部会は、水環境中の化学物質を主な対象としたセミナーや講演会を行っております。有機フッ素化合物、PPCPs、難燃剤、農薬類、水環境中挙動、リスク評価の手法及び固相抽出などの基礎技術セミナーを開催してまいりました。最近では『水道水中に存在する微量有機物質に関するセミナー』にて、農薬類の分析法と実態調査、浄水処理におけるホルムアルデヒド前駆物質であるヘキサメチレンテトラミンの分析法と処理性などを取り上げました。今年度は化学物質による地下水汚染に関する講演会を企画する予定です。

【連絡先】 担当支部幹事 小泉 義彦（大阪府立公衆衛生研究所） E-mail：koizumi@iph.pref.osaka.jp

### 環境モニタリング情報部会

環境モニタリング情報部会は関西地区の大学、企業、地方環境研究所等に所属し、環境モニタリングに携わる、または興味を持っているメンバーから構成されています。

この特性を活かしてこれまでは、関西圏における河川水質について長期的な視点から評価を行い、水環境学会年会およびシンポジウムにて発表する等の当部会ならではの地元密着型の情報発信を行ってきました。しかしながら最近では厳しい財政事情下でこのような解析を行う基礎となる環境モニタリングの整理・統廃合が進み、モニタリングデータの質と量に関する維持が大きな課題となっています。

当部会では最近の環境モニタリングを取り巻くこのような厳しい状況を考慮し、参加機関間の情報交換および議論から今後の環境モニタリングについて考えていきます。

【連絡先】 担当支部幹事 宮崎 一（公財）ひょうご環境創造協会 兵庫県環境研究センター）  
E-mail：miyazaki-h@hies-hyogo.jp

公益財団法人ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター（宮崎 一）

兵庫県は、北は日本海、南は瀬戸内海から太平洋に面し、大都市から農山村まで、さまざまな地域で構成されており、「日本の縮図」といわれています。当センターでは、このように多様で広い県土に対して兵庫県（環境部局等）からの依頼を受けて、大気汚染・水質汚濁の監視業務における試料の分析、立入検査などの検体分析、発生源における適正管理や排出抑制対策の指導助言などを行っています。

- ・水質環境基準等監視分析業務、工場排水等分析業務、降雨時の栄養塩類の面源負荷等調査業務、土壌汚染対策分析業務、排出基準未設定化学物質実態調査業務、千刈水源池への発生負荷量等実態調査分析業務、ダイオキシン類濃度測定調査業務、ばい煙濃度測定調査業務、揮発性有機化合物（VOC）濃度測定調査業務、酸性雨監視測定業務、有害大気汚染物質監視業務、アスベスト環境監視業務、ヒートアイランド現象モニタリング調査業務、化学物質環境実態調査分析等業務、特別管理産業廃棄物等監視業務、地球温暖化対策に関する調査業務、温室効果ガス排出量推計業務、PM2.5注意喚起精度向上業務、環境放射能水準調査業務、放射性物質拡散シミュレーション業務

調査研究に関しては行政ニーズを踏まえて、以下の課題について平成26年度から平成28年度を実施期間として行っています（国・地方環境研究機関、大学との共同研究を含む。）。

○水環境科（水質環境担当）

閉鎖性海域等の環境対策に関する研究（大阪湾奥部における富栄養化と播磨灘の貧栄養化に対応するための栄養塩類の適正管理に資する。）

○水環境科（安全科学担当）

有害化学物質対策等に関する研究（残留性有機汚染物質等の環境中の動態把握や分析手法開発を行う。）

○大気環境科

広域大気汚染及び地域大気汚染の対策に関する研究（シミュレーションモデルを用いてPM2.5や光化学オキシダントの高濃度要因等を解析する。）



研究所外観

## 追悼文

2015年10月13日にご逝去されました元日本水環境学会関西支部支部長の村岡浩爾先生を偲んで、本号では当時の副支部長で在らせられた奥野先生に追悼文を寄稿して頂きました。村岡浩爾先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

碩学の村岡浩爾先生を悼む（奥野 年秀（元兵庫県立公害研究所））

昨年10月13日早晩、村岡浩爾先生が逝去されました。碩学の水環境学者として、関西支部にとっては貴重な存在でした。先生は関西支部長（1995.11～1997.11）の時代から志を同じくした同輩として共に関西支部の活動を歩んだ親しみが蘇ります。筆者がJICAでタイ国に赴任して帰国した1994年10月早々、支部長の小田國雄氏（大阪市環境科学研究所・環境分析課長）から電話があり、次の副支部長を要請された。当時は、大学と公立研究機関が交互に支部長の役割を分担していた、次の支部長は旧知の村岡先生（大阪大学工学部教授）との事なので喜んで引き受けた。特に、印象に残る出来事は阪神淡路大震災（1995.1.17）における素早い行動であった、当時の支部長は小田氏であり、神戸で被災された小田氏の不幸を副支部長として支えた、関西支部設立20周年記念誌（「かんすい」2005.3）参照。同年11月に支部長を引き継ぎ直ちに関西支部に「阪神・淡路大震災による水環境への影響」の特別調査研究チーム（分科会：水資源・水利用・水測定）を立ち上げ、環境庁予算の獲得に尽くされ実施された、次の支部長（筆者、1997.11～1999.11）での当該テーマのシンポジウム開催（神戸）の基盤を作られた。なお、支部長時代に



川部会の淡河視察(台湾)における京劇の観劇

関西支部に川部会を設立して淀川水系や近畿圏の河川における水環境を文理融合した視点で観察するユニークなチームを作られ現在も続いている。沖縄の西表島（浦内川）におけるマングローブ探索や韓国ソウルにおける首都河川の復活現場視察や台湾の淡河視察では京劇の三国志観劇で関羽の人柄を愛でたのが印象に残る。私的にはイギリスにおけるコモنزの精神と河川の恵みを共有する精神を語られ一冊の本：コモنز研究のフロンティア・山野海川の共有世界（三俣学ら：東大出版会、2008）を頂戴したのも最近の出来事であり、平成24年に武庫川市民学会を立ち上げて市民の目線で河川環境を論じる視点を貫かれたのも、義に厚く民を愛した関羽將軍に似た稀有な学者であった。安らかにお眠り下さい、先生のご冥福をお祈り致します。

### 2015年度 関西支部役員名簿

顧問	奥野年秀 寺島泰 中室克彦 山田淳	元兵庫県立公害研究所 京都大学名誉教授 摂南大学 立命館大学	古武家善成 福永勲 村岡浩爾 森澤眞輔	神戸学院大学 元大阪市立環境科学研究所 大阪大学名誉教授 京都大学
名誉理事	飯田博 海老瀬潜一 竺文彦 園欣彌 土永恒彌 服部幸和 和田安彦	(株)ガンマー分析センター 元摂南大学 龍谷大学 元兵庫県立工業技術センター 元大阪市立環境科学研究所 元大阪府環境農林水産総合研究所 関西大学	石川宗孝 國松孝男 宗宮功 高原信幸 中本雅雄 松井三郎 山田春美	大阪工業大学 滋賀県立大学名誉教授 京都大学名誉教授 元神戸市環境保健研究所 NPO大阪環境カウンセラー協会 京都大学名誉教授 元京都大学
支部長・理事	米田稔	京都大学		
副支部長・理事	大久保卓也 八木正博	滋賀県立大学 神戸市環境保健研究所	長谷川進	(株)神鋼環境ソリューション
理事	天野耕二 尾崎博明 貫上佳則 斎藤方正 須戸幹 田口寛 中島淳 平田健正 藤井滋穂	立命館大学 大阪産業大学 大阪市立大学 (財)琵琶湖・淀川水質保全機構 滋賀県立大学 日本メンテナンスエンジニアリング(株) 立命館大学 放送大学和歌山学習センター所長 京都大学	池道彦 川崎直人 駒井幸雄 新矢将尚 関本達之 内藤正明 中野武 福嶋実	大阪大学 近畿大学 大阪工業大学 大阪市立環境科学研究所 京都府保健環境研究所 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 大阪大学 愛媛大学客員教授
幹事長	島田洋子	京都大学		
幹事	浅野昌弘 市木敦之 遠藤徹 緒方文彦 門口敬子 北本寛明 後藤敦子 佐藤祐一 田中一冬 谷口正伸 肥田嘉文 藤井俊樹 藤原康博 松田由美 矢吹芳教 和田桂子	龍谷大学 立命館大学 大阪市立大学 近畿大学 (財)関西環境管理技術センター 兵庫県立健康生活科学研究所健康科学研究センター 尼崎市立衛生研究所 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター (株)クボタ 和歌山大学 滋賀県立大学 (財)ひょうご環境創造協会 大阪市立環境科学研究所 (株)タクマ 大阪府環境農林水産総合研究所 (財)琵琶湖・淀川水質保全機構	東剛志 入江政安 大鳥詔 笠原伸介 木南敬之 小泉義彦 櫻井伸治 高浪龍平 田中周平 濱崎竜英 広谷博史 藤井智康 船石圭介 宮崎一 川寄悦子	大阪薬科大学 大阪大学 大阪市立環境科学研究所 大阪工業大学 京都府保健環境研究所 大阪府立公衆衛生研究所 大阪府立大学 大阪産業大学 京都大学 大阪産業大学 大阪教育大学 奈良教育大学 日立造船(株) (財)ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター (株)日吉